



平成 29 年 2 月 14 日

各 位

会 社 名 株式会社ゼネラル・オイスター
代 表 者 名 代 表 取 締 役 C E O 吉 田 秀 則
(コード番号：3224 東証マザーズ)
問 合 せ 先 常務取締役 CFO 経営戦略本部長 安部 浩司
(TEL. 03-6667-6606)

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は下記のとおり特別損失を計上することとなりましたので、その概要をお知らせするとともに、平成 28 年 11 月 14 日に公表いたしました、平成 29 年 3 月期（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）の業績予想を修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上

店舗閉鎖損失 61 百万円

固定費圧縮の一環として、平成 29 年 1 月における不採算 2 店舗（大手町店及びウィング川崎店）の閉店に伴う費用として、61 百万円を特別損失に計上するものであります。

当期において、不採算店舗の閉店は合計 4 店舗（銀座メルサ店、町田店、大手町店、ウィング川崎店）となります。

2. 平成 29 年 3 月期の通期業績予想の修正（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想 (A) 平成 28 年 11 月 14 日	4,200	40	20	330	213 円 05 銭
今回修正予想 (B)	3,900	△450	△465	△134	△86 円 66 銭
増減額 (B-A)	△300	△490	△485	△444	—
増減率 (%)	△9.3	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	3,893	△342	△349	△486	△325 円 39 銭

3. 修正の理由

売上高は、当社の最大の繁忙期である第3四半期において宮城県の全海域からノロウイルスが検出されたことに伴う牡蠣出荷停止等に関する報道の間接的な影響もあり、客数が激減し、既存店及び新店ともに売上が計画を下回ったことに加え、上記2店舗（大手町店及びウィング川崎店）の閉店により前回予想を下回る見通しとなりました。

営業利益及び経常利益は、不採算店の閉店及び浄化センターの統合による費用削減が見込まれること、並びに連結子会社㈱ジーオー・ファームにおける補助金収入が見込まれておりますが、売上が想定を下回ったことからグループの固定費を賄うことができなかったこと、食材の値上がりや販売施策で原価率が上昇したこと及び人件費単価があがり人件費の上昇を抑えられなかったこと等により前回予想を下回る見通しとなりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益が前回予想を下回る見通しになったことに加え、特別損失に追加2店舗分の店舗閉鎖損失を計上したことにより、前回予想を下回る見通しとなりました。

以上